

## 国内経済情勢

### 概観

3月の鉱工業生産、出荷は前月に続きともに増加し、生産者製品在庫率はさらに低下した。また官公需がかなりの増勢を持続しているなかで、機械受注や労働関連指標にもようやく下げ止まりの気配がうかがわれるなど、このところ景気の底入れを示す動きがしだいにみえはじめている。

もっとも商品市況をみると、鉄鋼を中心に上げ一服となっており、上伸基調にはいまひとつ力強さを欠いている。

4月の金融市場では、銀行券の発行超額が前年を上回り、また財政資金は外為会計の揚超転化から前年に比べ払超幅を縮小した。一方、3月の金融機関貸出は期末事情も加わって高い伸びを続け貸出金利は引き続き大きく低下した。

3月の国際収支は貿易収支の黒字幅が拡大したものの、長期資本収支が延払信用供与の増加などから大幅流出超となったほか、2月下旬の輸出前受金の受入れ規制もあって、総合収支では黒字幅が大きく縮小した。外貨準備は4月中128百万ドル減少し月末残高は16,535百万ドルとなった。

#### 3月の生産、出荷は引き続き増加

鉱工業生産(季節調整済み、前月比)は2月+0.9%のあと、3月(速報)も+1.1%と増加した(原計数の前年同月比では+5.0%)。財別には、非耐久消費財を除きいずれも増加したが、なかで

も耐久消費財と一般資本財の反動増が目だっている。

鉱工業出荷(季節調整済み、前月比)は、前月に続いて3月(速報)も+1.5%とかなりの増加となった(原計数の前年同月比+5.3%)。財別には資本財の伸びが高いが、生産財も着実な増加をみせた。このところ出荷は生産を上回る伸びを続けており、1~3月期では生産の伸びが前期比+3.0%であるのに対して、出荷は同+4.5%の増加となっている。

生産者製品在庫(季節調整済み、前月比)は、前月かなり減少したあと、3月(速報)は、自動車、家電製品等の耐久消費財が増加したものの+0.3%と微増にとどまった。このため、3月の製品在庫率指数は104.7と前月に続いて低下した。

設備投資関連指標の動きをみると、3月の一般資本財出荷(季節調整済み、前月比、速報)は、2月微増のあと、建設機械、風水力機械等を中心に+4.8%とかなりの増加を示した。また機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、これまで出遅れていた電力の一括発注に加え、期末事情もあって+41.0%と大幅な伸びをみせた。もっとも、原計数の前年同月比では-10.0%となお低水準である。3月の建設工事受注額(季節調整済み、前月比、速報)では、民間産業分が前月に続き+20.1%(原計数の前年同月比+9.5%)と大きく伸長したが、官公需分は、前月著増の反動もあって-5.2%(同+37.4%)と減少した。

労働および賃金面における動きをみると、3月

の常用雇用(全産業、季節調整済み、前月比、速報)は、このところ着実な増加を示していた非製造業が伸び一服となったことから、 $-0.5\%$ と減少し、前年同月比では $-0.3\%$ と前年水準を下回った。しかし3月の一般求人倍率は1.07と前月に続き上昇した。また、3月の所定外労働時間(全産業、季節調整済み、速報)は前月比 $+2.2\%$ と久しぶりに増加し、名目賃金も同 $+2.1\%$ とやや高い伸びを示した。なお、本年春の賃上げ交渉をみると、妥結に至った向きはいまだ一部にとどまっているが、前年の回答額と比較して金額でやや多く、伸び率でやや下回る回答が大勢であるようにうかがわれる。

なお3月の全国百貨店売上高は、前年同月比 $+14.1\%$ と前2か月をいくぶん下回った。

#### 商品市況は上げ一服

4月の商品市況をみると、塩ビ、セメント、ガソリン等が上昇ないし強含みを続けたものの、綿糸、銅等が値下がりをしたほか、これまで続伸してきた鋼材が騰勢一服ないし小幅訂正安を示したため、総じてみれば、上げ一服商状となった。これは生産調整等供給側の市場対策の効果が浸透しているものの、春需が盛り上がりを欠いたり、先高見越しによる在庫補充が一段落したため、商品市況の基調にはいまひとつ力強さが乏しい。

3月の卸売物価は食料品、鉄鋼、非鉄金属の値上がりを中心に前月比 $+0.3\%$ と続騰した(前年同月比 $-0.2\%$ )。なお、46年度平均では前年度比 $-0.8\%$ 。また4月にはいってからも、繊維品、機械器具等が値上がりしたため、前月と同じ程度の上昇となった模様である。

4月の消費者物価(東京、速報)は、授業料の値上げや食料費、住居費の上昇から、総合で前月比

$+1.0\%$ と引き続き上昇した(前年同月比 $+4.8\%$ )。季節商品を除いてみても前月比 $+0.6\%$ の上昇となった(前年同月比 $+5.2\%$ )。

#### 3月の貸出は引き続き高水準

4月の銀行券は828億円の発行超と前年(同215億円)を上回った。また財政資金は一般財政が国債の大量発行もあって、前年をやや下回る払超にとどまったうえ、外為会計が前年とは様変わりによ揚超に転じたため、月中では3,643億円の払超と前年(同6,544億円)に比して払超幅は大きく縮小した。このため金融市場では月中資金余剰額が1,854億円にとどまり、日本銀行は売オペレーションを中心にこれを調整した。

4月の銀行券月中平均発行高は前年同月比 $+15.7\%$ となり、1月以降やや伸び率を高めている。また3月の預金通貨月中平均残高は前年同月比 $+27.3\%$ と再び増加した。3月の全国銀行貸出増加額は、前年同月比 $+34.7\%$ と引き続き高い伸びを示し、貸出残高の前年同月比伸び率は $+24.1\%$ となった。また中小企業金融機関の貸出増加額も3月は全国銀行を上回る大幅な伸び率を示した。このような3月の貸出伸長は、期末事情もあって金融機関が一段と積極的な貸し進み態度をとったことが響いているとみられる。

3月の全国銀行貸出約定平均金利は前月と同じく月中 $0.067\%$ の大幅低下を示し、月末水準は $7.273\%$ と従来の最低(42年8月末 $7.278\%$ )を下回るに至った。

公社債市況は、4月にはいっても根強い買いに対して売物薄という状態に変化はなく、市中価格はほぼ全銘柄が額面を上回っている。一方、4月に行なわれた発行条件の改訂にもかかわらず、事業債の起債意欲は停滞を続けており、4月の起債

額はさらに減少した。

株式市況は4月月央以降高値警戒感の台頭などから値を下げたが、下旬には再び反騰し月末には高値を更新した。

#### 4月の外貨準備はわずかながら減少

3月の国際収支は、貿易収支の黒字幅が拡大したものの、長期資本収支が延払信用供与増などから大幅流出超となったほか、短期資本収支等が2月下旬の輸出前受金規制の復活を映じて流出超となったため、総合収支では118百万ドルの黒字にとどまった(前月同661百万ドル)。

3月の輸出(通関ベース)は、前年同月比+19.1%(邦貨表示額では同+1.9%)と2割台を割ったものの、依然高い伸びを続けており、品目別では自動車、オートバイ、弱電製品、船舶が引き続き高い伸びを示したが、鉄鋼、食料品、繊維品等は伸び悩んでいる。地域別には、共産圏、アフリカ、中近東向けが目だって高いほか、米国、西欧向けも高水準を維持しているが、東南アジア向け

は伸び率低下を続けている。4月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は前月比+1.8%と増加したが、原計数の前年同月比では、前年の著伸に加えこのところ信用状付き輸出の比重が減少していることもあって、+3.3%と水準はさらに低下した。

3月の輸入(通関ベース)は、前年同月比+16.7%と45年12月以来の高い伸びを示した(邦貨表示額では同-0.1%)。これには大型航空機の入着集中等の特殊要因がかなり響いているものの、これを除いてみても、食料品、一般消費財や石油、繊維原料等が増加しており、このところやや増勢回復の傾向がうかがわれる。3月の輸入承認額(季節調整済み)は前月比+0.8%と小幅ながら増加した(原計数の前年同月比+13.8%)。

外貨準備は3月中185百万ドルの小幅増加のあと、4月中は45年7月以来1年9か月ぶりに減少(128百万ドル)を示し、月末残高は16,535百万ドルとなった。

(昭和47年5月9日)